

日本産業衛生学会 近畿地方会ニュース

発行所 日本産業衛生学会近畿地方会
〒641-0011 和歌山市三葛 580 番地
和歌山県立医科大学保健看護学部内
専用 FAX 番号：050-3737-1042
発行責任者・森岡郁晴（地方会会長）
<http://jsoh-kinki.jp>

新年のご挨拶

近畿地方会会長 森岡 郁晴



新年あけましておめでとうございます。近畿地方会の皆様方におかれましては、晴れやかな新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

年頭にあたり、昨年後半の地方会活動を振り返り、あわせて本年の予定を述べさせていただきたいと思います。

昨年 11 月の第 58 回近畿産業衛生学会は、岩根幹能学会長のもと、盛会裏に終了しました。一般演題は 14 題あり、参加者も全体で 214 名でした。午後からの特別講演、シンポジウムの詳細は本号に紹介されていると思いますが、パーソナリティ障害について学ぶ絶好の機会となりました。

第 8 回近畿産業衛生学会優秀演題賞は、森岡郁晴に授与されました。研究内容は、がん患者の療養と職業生活の両立支援について和歌山県の実態調査をしたもので、厚生労働省が昨年から力を入れている内容でした。地方会会長が受賞することは問題があるとは思いますが、今後の励ましということで、うれしく頂きました。感謝しています。また岩根幹能学会長が設置なさいました若手奨励賞は、岩倉浩司氏が受賞されました。若手奨励賞の授賞者は若手であり、今回の受賞を契機として将来の近畿地方会を担っていく研究者になられることを確信しています。

昨年は重要な活動がもう二点ありました。一つ目は、大学・部会・研究会の連携プロジェクトです。若手研究者の方々が学会の議論を主導していくことと、産業医・産業看護職・その他の職種の中でも特に若手会員が研究企画力・遂行力を高め、自立して活動していくことが、日本産業衛生学会のエネルギーを維持、発展させていくために必要です。そのための道筋として、久保田昌詞理事を中心に「研究室訪問」を企画していただいています。若手研究者が大学の先生等の研究室を訪問して、お互いを知り合い、他研究者の智恵や発想を自らの研究に活かしていくことを期待しています。

二点目は、学会役員の選挙です。佐藤恭子選挙管理委員長を中心に電子投票になりました。選挙管理委員会

の委員のご尽力に感謝いたします。

会員の皆様、電子投票はいかがで

したでしょうか。次回の総会で、ぜひご意見をお聞かせください。

さて、今年の地方会総会は、6 月 8 日（土）の午後には大阪市立大学医学部学舎で開催されます。同時に開催されます学術講演会は担当理事と学術部会が中心となって企画しています。詳細は次号で紹介いたします。

第 59 回近畿地方会は、11 月 9 日（土）に森口次郎学会長のもと、京都府で開催されます。第 9 回近畿産業衛生学会優秀演題賞を狙って演題をどしどしご応募ください。午後からはすばらしい企画が準備されますので、多くの学会員が参加されることを望みます。

これらの全体的な活動に加え、本年も産業医部会、産業看護部会、産業技術部会の研修会や講演会など盛り沢山に計画されています。いずれも有意義な会になると確信しています。

前述のように、役員選挙がありました。私は車谷典男地方会長の後を引き継いで、4 年間地方会会長を勤めさせていただきました。幹事の先生、代議員の先生、そして会員の皆様の絶大なる協力を得て、大過なく担当させていただきました。この感謝の気持ちをもって、3 月 1 日東レ滋賀事業場の中西一郎先生にバトンタッチさせていただきます。数多くの不手際があったと思いますが、ご寛容をお願い申し上げるとともに、厚くお礼申し上げます。今度は、一会員として、地方会活動に微力ですが貢献させていただく所存です。

最後になりましたが、会員の皆様に今年も地方会活動に積極的にご参加いただけますようお願いするとともに、皆様の心身のご健康と一層のご活躍を祈念して、年頭のご挨拶といたします。



第58回近畿産業衛生学会開催のご報告

新日鐵住金和歌山製鐵所／NS メディカル・ヘルスケアサービス
第58回近畿産業衛生学会 学会長 岩根 幹能



2018年11月10日（土）に和歌山県JAビルで第58回近畿産業衛生学会を開催しました。お招きした2人の講師を含めて参加者数214人、懇親会参加52人と盛会でした。天候に恵まれ、交通の乱れもなく幸運でしたが、多くの人の力が結集してこそ、と感謝しています。ご支援いただきました近畿地方会の会員・役員、座長・演者、実行委員、参加者各位のご協力と、協賛企業・団体に心より厚くお礼申し上げます。

今回の学会運営は手作りで、受付の不手際など至らない点多々あり、ご迷惑をおかけしましたこととお詫びいたします。参加者数が想定を上回り、途中で席数を増やすなどバタバタしましたが、本会前理事長の圓藤先生が先頭を切って椅子を並べてくださったのは一生の思い出です。

一般演題14題のうち、優秀演題賞は近畿地方会長で和歌山産業保健総合支援センターの森岡郁晴先生が受賞されました。「がん患者の療養と職業生活の両立支援について：和歌山県の実態調査」で、50人未満の小規模事業所ではそれ以上の規模の事業所よりもむしろがん検診受診勧奨率が高いことや、時間単位の有給休暇制度が多いことなど、温かみのある取組みをデータで示されました。また、若手奨励賞は滋賀医科大学大学院の岩倉浩司先生が受賞されました。「茶刈り作業における安全衛生上の課題～信楽茶農家での事例検討～」で、実労働現場に深く入り込み、作業工程を事細かに調査した上で作業者の負担を明らかにされました。ご両名の栄誉を讃えたいと思います。

教育講演では産業医科大学健康開発科学の大和浩教授に「加熱式タバコの構造、蔓延の実態、使用者への対応とこれからの喫煙対策」をご講演いただきました。喫煙対策は産業保健業務の柱のひとつであり、われわれは最新の正しい知識を持つ必要があります。加熱式タバコが室内空気を汚さないわけではなく、「有害成分が少ない」は健康リスクを低減するわけではないことが理解できました。

ランチセミナーでは和歌山県立医科大学循環器内科の猪野靖講師に「職員が急性心筋梗塞を発症！さあどうする？」をご講演いただきました。残念ながら幹事会のために聴講できませんでしたが、スライドを拝見したところ産業保健現場をかなり意識した内容で日常業務にすぐに役立つものと思いました。

基調講演は花谷心療内科クリニックの花谷隆志先生に「パーソナリティ障害とは、いかなる障害なのか？」をお話いただきました。メンタルヘルスの問題へ対応する上で、パーソナリティ障害（PD）への理解は不可欠です。PDの根底的な病理を知る貴重な講演でした。

続くシンポジウム「パーソナリティ障害のインクルージョン」では4人にご登壇いただきました。1次予防について花王和歌山工場の松田雅美保健師が「パーソナリティ障害が不適応に陥りにくい職場づくり」で、心理的安全が保障される会社風土、ラインケア教育、アクセスしやすい健康管理部門という3ポイントを示されました。続く2次予防では新日鐵住金／NS メディカル・ヘルスケアサービスの麦谷耕一産業医が「事例化したパーソナリティ障害への対応」で、組織的な対応や主治医との連携について話されました。3次予防では関西福祉科学大学の長見まき子教授が「パーソナリティ障害の復職支援」で、関わる人達が陰性感情を抱きやすいこと、PDでは業務遂行能力が低下しない長所が対応のヒントになることを示されました。最後に「パーソナリティ障害への配慮と限界点」で近畿大学法学部の三柴丈典教授が、必要な配慮をするとともに事例性を客観的に記録していく手続的理性を尽くすことを話されました。

話が前後しますが、本学会のメインテーマは花谷先生のアドバイスにより「ダイバーシティ（多様性）&インクルージョン（内包する）」としました。一定の割合で必ず存在するPDというダイバーシティをどのようにインクルージョンするのか？現実にはとても難しいですが、インクルージョンの姿勢こそがPDを持つ労働者への対応策そのものだという結論に至りました。インクルージョンは「無力な悪い自己」を感じにくくすることを通して、他者を「自分を迫害する悪い対象」にしないのです。

懇親会では、しなの路さんの品揃え豊富な美味しい料理だけでなく、北新地の名店、鮎処 多田さんが握りを振る舞ってくださいました。紀州の地酒とのマリージュは最高でした。花谷先生の誕生日サプライズ祝いもあり、笑顔あふれる会になりました。来年の会長、京都工場保健会の森口次郎先生のご挨拶で平成最後の近畿産業衛生学会は終了しました。

第 58 回近畿産業衛生学会の報告

基調講演「パーソナリティ障害
とは、いかなる障害なの
か？」を拝聴して

長谷工クリニック（大阪）

西田 和彦



2018年11月13日、秋晴れの和歌山、和歌山県JAビルにて「パーソナリティ障害とは、いかなる障害なのか？」という演題で、花谷心療内科クリニック院長花谷隆志先生の基調講演を拝聴いたしました。

私は、『パーソナリティ障害』のことをこれまで全く理解できていませんでしたので、花谷先生のご講演を拝聴するのを楽しみにしていました。花谷先生のご講演は、パーソナリティ障害、特に自己愛性パーソナリティ障害について、私のような一般的な聴衆でもわかりやすい言葉で丁寧に話していただき、まさしく頭の中がすっきりする、秋晴れ状態となりました。

成熟したパーソナリティは、『それは、良くも、悪くもある』という両価性に耐える力を持っているのに対して、パーソナリティ障害では、スプリッティングが中核病理となっている。スプリッティングでみられる症状は、①『良い』か『悪い』かで、二分割して理解する、②葛藤を自覚すると、自動的に自分を迫害している相手のイメージが浮かび上がる、③感情が瞬時に切り替わる、というもので、例えば、今にこやかに会話していたのに、自分に何か不都合を自覚した途端、突然、激怒し始めたり、泣き出したりする、ということでした。これは、幼少期（再接近期）に母親から分離できず、自我機能が発達しなかったためようです。また、2つの分離した『良い』か『悪い』イメージから、理想化した対象（例えば担当の精神科医）と、脱価値化した対象（例えば、会社上司）を形成し、「主治医の先生が会社（上司）の対応はひどいと言っている」という発言などとなり、脱価値化した対象への事例化につながるようでした。さらにご講演では、如何にパーソナリティ障害を持つ社員をインクルージョンできる職場を形成するかが重要であり、そのためには労働者同士お互いに感情的になることなく、話を聞くこと、相手を尊重することが大事ということでした。

今回の基調講演は、私にとって明日からの産業医業務に役立つ貴重な時間となりました。この場を借りまして、ご講演いただきました花谷隆志先生、学会長の岩根幹能先生ならびに関係者の皆様に御礼を申し上げます。

第 58 回近畿産業衛生学会の報告

シンポジウム「パーソナリティ障害
のインクルージョン」に
参加して

全国健康保険協会和歌山支部

青木 美恵



シンポジウムでは、4名の先生方が登壇され、次の4つのテーマでパーソナリティ障害を有する労働者への対応についての講演がありました。

「一次予防～パーソナリティ障害が不適応に陥りにくい職場づくり」（松田雅美先生）では、パーソナリティ障害を有する人は、一定数存在していることは避けようがない事実であり、そのうえで、その人たちが事案化しないで職務に従事できることが、一次予防として大切であり、事案化させないためには会社風土づくりが重要で、管理職の教育の必要性を感じました。

「二次予防～事例化したパーソナリティ障害への対応～」(麦谷耕一先生)では、事例を通じて、事案化した際にどのように対応したらよいのかを考える機会になりました。

応対する際は、個人での対応はできるだけ避け、組織的に対応することが望ましく、感情的な対応にならないよう冷静な姿勢で応対すること、事案の出来事や非常識的な言動等について客観視し、記録をしておくことが重要であることを学びました。

「三次予防～パーソナリティ障害の復職支援～」(長見まさみ先生)では、復職支援プログラム（リワーク）での活動を通じて感じるパーソナル障害の方の復職支援の課題について説明があり、復職の難しさを感じました。休職するまでの問題行動が影響し、復職時の受け入れ先の調整が困難であることや、本人の認識として「休職になったのは上司のせいだ」と思っており、リワークを勧めても固辞するケースもあり、事業場の判断として復職支援より退職の方向で対応する事例も多く、リワークの現場に繋がるのが少ないということを知りました。

「パーソナリティ障害への配慮と限界点」(三柴丈典先生)では、企業対応として健康診断や治療勧奨を実施した上で休職等の処分を検討し、その後の経過を見るなどの対応を怠ったことで、企業責任を追及された判例があったことを知り企業対応の在り方について学びました。

事案化し裁判にまでなると、長期化は避けられず、大変な労力と精神的負担が生じるため、可能な限り事案化させないことが重要であることを、シンポジウムを通じて再認識する機会になりました。

第58回近畿産業衛生学会の報告

教育公演「加熱式タバコの構造、蔓延の実態、使用者への対応とこれからの喫煙対策」を拝聴して

パナソニック（株）
AIS 社守口・健康管理室

中西 知美



産業医科大学の大和浩先生より、「加熱式タバコの構造、蔓延の実態、使用者への対応とこれからの喫煙対策」について、ご講演いただきました。会場の参加者密度も高く、関心の高さが伺えました。加熱式タバコが、「有害成分の量が少ない」「空気を汚さない」ことをアピールして急速な広がりを見せています。2018年7月に成立した改正健康増進法において、飲食店で加熱式タバコ専用の喫煙室を設置すれば、加熱式タバコを使用しながらの飲食を可能とするとされ、ますますの蔓延化が懸念されます。

ご講演では、喫煙者の労働災害リスクは非喫煙者の約1.6倍であること、三次喫煙の問題、電子タバコ、加熱式タバコの分類、特徴などについて、非常にわかりやすくご説明いただきました。大和先生が行われた調査では、加熱式タバコを使用する理由は、紙巻きタバコによる自身の健康障害の回避、他者（特に家族）への危害の回避が上位を占めていました。しかし、厚生労働省は、加熱式タバコから発がん性物質が発生することを示しています。そのため、使用者には、発がん性の有無は10～20年後にならないと確定しないこと、受動喫煙でさえ心血管系疾患や肺がんのリスクを上げることから分かるように、健康影響はわずかな曝露から発生することを説明する必要があります。また、解剖学的死腔までしか吸引されなかったエアロゾルは、次の呼気に呼出され、副流煙は発生しませんが、呼出されるエアロゾルによる二次曝露は発生します。自宅内で使用した場合、低濃度であっても家族が有害成分に長期間曝露されるため、気管支喘息や子どもの中耳炎、シックハウス症候群のリスクになる説明が必要です。

最近、加熱式タバコへの切替、または紙巻きタバコと併用している人が社内で増加していると実感しています。情報提供を行い、禁煙外来へ誘導する必要があることを改めて認識しました。

第58回近畿産業衛生学会の報告

第58回近畿産業衛生学会一般演題の報告

（一財）京都工場保健会

倉谷 昂志



今回の近畿産業衛生学会では、一般演題が14題発表されました。内容は、生活習慣病予防、特定保健指導、メンタルヘルス、両立支援、安全衛生など多岐に渡り、臨床心理士の筆者にとっては、普段接しない研究分野にも触れることができました。演題を聴講していると、今まで何となく気になっていたことが明確になったり、関連がないと思っていた事柄が線で結ばれたり、疑問が次々に浮かび上がったりと、新しい気づき・発見があり、大変学びのある時間でした。

筆者自身も演題発表をさせていただきました。「仕事のモチベーションと心理的ストレス反応からみた『職場タイプ判定』の分析」というタイトルで、健康リスクとモチベーション・心理的ストレスの関連を検討した内容です。緊張で思うように発表できなかったのは悔やまれますが、多くのストレスチェック集団分析で使用されている健康リスクの見方の1つとして、参考になるようであれば嬉しい限りです。

今回聴講した発表の中で、特に印象的だった演題は、大阪がん循環器病予防センター・手塚一秀先生の「職業性ストレス簡易調査票に基づくストレス要因と肥満との関連、並びに緩衝要因による交互作用についての検討」でした。職場の対人関係ストレスが肥満と正に関連すること、また家族・友人からのサポートが食生活の乱れを予防する可能性が示唆されていました。産業衛生の場で対人関係というと職場の方にフォーカスしがちですが、職場以外の対人関係も含めてアセスメント・支援が必要なことを改めて痛感いたしました。また、こころと身体つながりを具体的に研究されている先生の姿勢は、とても刺激的でした。

演題を聴き終えた時、少しの高揚感と、「次は〇〇について研究をしてみようかな」という気持ちで胸が膨らんできました。今回の学会で頂いた知恵と工夫、アイデアを労働者の方々に還元できるよう、日々精進して参りたいと思います。このような貴重な機会を頂けたことを心から感謝いたします。

第 58 回近畿産業衛生学会の報告

「第 58 回近畿産業衛生学会優秀演題賞を受賞して」

和歌山産業保健総合支援センター
森岡 郁晴

この度優秀賞をいただき、感佩です。「まさか自分が」と驚きながら、そして、「地方会長が受賞していいのか」と少し悩みましたが、選考委員会のご推薦ですので、受賞させていただきました。

この賞は、車谷典男前地方会長が近畿産業衛生学会の第 50 回開催を記念して新設されました。実は、その際に幹事として具体案を考えさせていただきした。実際に活躍されている、あるいは、これから活躍する人を念頭に置いたものでありましたが、自分が受賞すると、これからの学会活動への励ましのように思えます。会長は今年 2 月で交代しますが、この賞を節目として、今後も学会活動を続けていく所存です。

今回の内容は、和歌山産業保健総合支援センターの調査研究事業の成果を発表させていただいたものです。一緒に調査研究を担当してくださった関係者の皆様に深く感謝を申し上げるとともに、選考委員会の皆様、そして何より、地方会の皆様ありがとうございました。

「第 58 回近畿産業衛生学会若手奨励賞を受賞して」

滋賀医科大学・医学系・
基礎看護

岩倉 浩司



この度は若手奨励賞の栄誉を賜り、誠にありがとうございます。本研究は、信楽町朝宮地区には膝痛が多いのか？という疑問からスタートしました。茶農家への聞き取りの結果、茶農家の作業工程や事故の詳細、膝痛・腰痛の訴えを聴取することができました。また、茶刈り作業の実務を通じて、上肢、下肢への負担を直に感じるすることができました。発表後、貴重な質問、意見をいただき、本研究の発展について方向性を示していただけました。具体的な対策や助言ができるように、肥料撒きや草刈り等、一年を通じた作業の調査も必要となってきます。次年度も茶農家へのフィールド調査を継続していく所存です。

今回ご指導いただいた滋賀医科大学社会医学講座衛生学部門の埴田先生、北原先生、辻村先生をはじめ、調査に協力いただきました皆様方には、この場をお借りして深謝いたします。

第 28 回日本産業衛生学会全国協議会の報告

第 28 回日本産業衛生学会全国協議会の報告

富士通（株）健康支援室
神澤 和子

平成 30 年 9 月 14 日～16 日に開催された学会のテーマは、「働き方の変革期における戦略的産業保健」でした。働き方の改革で、長時間労働の解消、多様で柔軟な働き方の推進がいわれており、弊社においても働く場所、時間はよりフレキシブルになり、雇用期間の延長で高齢者への対応、病気を持った労働者の治療と仕事の両立支援等にも取り組む必要が出てきています。これまでの働き方とは異なって多種多様となるため、産業看護職としては、より個々に沿った対応を求められ、他職種と連携をとりながら健康支援を行うことが重要だと改めて感じました。

今回は一般演題としてポスター発表にも参加しました。弊社は、年々平均年齢が上昇しており転倒による労働災害の増加を防止するため、ロコモティブシンドローム予防に向けた取り組みを発表しました。同じような取り組みをしている事業所と意見交換や情報共有をするなどとても参考になりました。

ほかに、聴講した合同シンポジウム「働き方の未来 2035」から考える産業保健～5 つの未来事例からのヒント～は興味深い内容でした。これは厚生労働省の 2035 年の予測する世界観の報告書をもとに、各シンポジストが産業保健の課題をそれぞれの立場で将来に向けた提言を行うという企画です。2035 年の働き方は AI、IT を中心とした技術革新、ロボットの発達により、時間や空間に縛られず、自分のライフスタイルに応じて働く場所と時間を選ぶことができる時代に変化するそうです。産業看護職として日常業務である保健指導は、AI が適切な保健指導を選択してすることになり、取って代わられるのかと思いましたが、シンポジストからは人間は怠慢で飽き性な動物なため、脱落しそうになったり、モチベーションが下がったときに五感を刺激する温かみのある働きかけは必要で、これは人間しかできないだろうと聞き、安堵しました。いずれにしろ、このような予測は遠くない未来のことだと思います。むしろ AI をうまく活用しながら、人間しかできない対象者の心に働きかける温かみのある保健指導をし、個々の充実した人生が過ごせるよう支援していけたらと思います。

平成30年度日本産業衛生学会役員選挙結果報告

近畿地方会選挙管理委員会 委員長 佐藤 恭子

今選挙では近畿地方会の選挙人（有権者）は1113名でした。中央選挙管理委員会から割り当てられた役員数は代議員111名でした。6月16日に改正されました近畿地方会細則に従い地方会会長および地方会監事は推薦および立候補、代議員は推薦により候補者を募りました。その結果、地方会会長候補2名、地方会監事候補3名、代議員候補294名となり、近畿地方会長選挙・近畿地方会監事選挙・日本産業衛生学会代議員選挙を実施しました。

選挙人（有権者）数は1113名でした。開票作業は平成30年10月13日に行いました。近畿地方会長選挙は1名を選出、投票率は24.6%でした。近畿地方会監事選挙は2名を選出、投票率は24.0%でした。日本産業衛生学会代議員選挙は111名を選出、投票率は29.7%でした。

理事候補5名の選出は代議員の互選により電子投票で行い、91名より投票がありました。開票作業は平成30年11月24日に行いました。なお、今回選出した理事候補者は、来年度日本産業衛生学会総会の承認を得て理事となります。

■近畿地方会 会長 (敬称略 定員1名)

氏名	得票数
中西 一郎	247
千谷 容子	27(次点)

■近畿地方会 監事 (敬称略 定員2名)

氏名	得票数
鮫島 真理子	247
廣部 一彦	200
千谷 容子	30(次点)

■近畿地方会選出 理事候補 (敬称略 定員5名)

氏名	得票数
井上 幸紀	50
久保田 昌詞	44
林 朝茂	41
鈴木 純子	37
西田 和彦	33
森口 次郎	28(次点)

理事は日本産業衛生学会総会の承認を得て決定します

■近畿地方会 代議員 (敬称略 定員111名)

氏名	得票数
伊藤 正人	46
岡田 邦夫	41
鈴木 純子	35
廣部 一彦	32
井上 幸紀	31
中井 栄	31
圓藤 吟史	30
津田 由紀	29
中西 一郎	28

■近畿地方会 代議員 (続き)

氏名	得票数
久保田 昌詞	28
北村 栄作	25
栗岡 住子	25
村田 理絵	24
牛久保 敦子	24
土井 泰治	24
守山 敏樹	24
丸山 総一郎	24
恵谷 秀紀	23
大脇 多美代	23
岡田 潮	23
祖父江 友孝	23
谷池 正行	23
津田 恵理	23
森岡 郁晴	23
森口 次郎	22
大橋 誠	22
鍵本 伸明	22
佐藤 恭子	22
田内 潤	22
豊川 彰博	22
埴田 和史	21
瀧本 忠司	21
藤岡 滋典	21
前田 宏明	21
三嶋 正芳	21
寶学 英隆	21
池田 雅彦	20
鍵谷 俊文	20
濱田 千雅	20
林 朝茂	20
平田 真以子	20
坂本 史彦	20
原田 昌子	19
圓藤 陽子	19
木曾 真一	19
喜多村 祐里	19

氏名	得票数
中嶋 千晶	19
中西 麻由子	19
長見 まき子	19
西田 和彦	19
前久保 邦昭	19
由田 克士	19
猪阪 善隆	18
金澤 禎行	18
清原 達也	18
下村 伊一郎	18
田中 茂美	18
寺澤 嘉之	17
今野 英一	17
上原 新一郎	17
谷口 有紀	17
日野 孝	17
夏目 誠	17
佐藤 洋	17
鮫島 真理子	17
森脇 博	17
竹下 達也	17
津野 香奈美	17
植原 秀和	16
川口 恭子	16
辻本 士郎	16
出口 裕彦	16
長谷川 健	16
萩原 聡	16
岩根 幹能	16
荒木 郁乃	15
出雲谷 恭子	15
岩崎 進一	15
大島 由美子	15
小林 麻美	15
白川 真紀子	15
森本 道雄	15
山本 博一	15

氏名	得票数
吉田 直樹	15
車谷 典男	15
一尾 直子	15
奥野 優	15
中田 ゆかり	14
大上 圭子	14
川瀬 都	14
久保 とし子	14
田中 紀子	14
泊 慶明	14
福田 昌宏	14
細谷 詩子	14
梶屋 義雄	14
吉川 貴仁	14
久保田 稔	14
柴田 泉	14
竹内 靖人	13
橋口 克頼	13
森山 和郎	13
河津 雄一郎	13
堤 梨恵	13
奥田 潤子	13
宮下 和久	13
垣本 洋希	13
北原 照代	13
石神 真人	13
島 正之	13
西川 嘉郎	13
仲岡 裕右	13(次点)
藤吉 奈央子	12(次点)
長谷川 恭一	12(次点)
竹村 芳	12(次点)

選挙細則に従いくじで順位決定

受賞おめでとうございます。

緑十字賞を受賞して



前久保クリニック

前久保 邦昭

緑十字賞をいただきました。本当に有難く感謝いたしております。思ってもいなかっただけに、私にというより、私を支えていただいた方々への賞辞だと思っています。

手元に、平成 10 年 2 月 13 日に開催された、近畿地区 THP 推進交流会第 14 回総会で私が講演させていただいたレジュメがあります。その頃から中災防で毎年講師を勤めさせていただき 20 年以上になりました。こんなにも長くお世話になったのかと感慨深いものがあります。今回の受賞に際し、ご推薦いただいた中央労働災害防止協会 大阪労働衛生総合センターの、所長圓藤吟史先生をはじめ事務局の方々には当初から本当にお世話になりました。連絡や日時調整、レジュメの準備、又アンケート結果の集計などをしていただき、心より御礼申し上げます。

当時まだまだ珍しかった精神科の嘱託産業医を平成 6 年から三田工業でさせて頂いておりました。平成 10 年といえ、その三田工業がまさかの倒産をし、その渦中に産業医を続け、倒産とはこんなものなのかと忘れられない経験をした年でもあります。また、「過労自殺」という言葉で産業メンタルヘルスの節目を作った電通事件が最高裁に控訴された年でもありました。図らずも、私は産業メンタルヘルスの発展と共にこの 20 年を過ごしてきたとも言えます。一方で、社会のニーズからうつ病学会、産業精神保健学会などが立ち上げられ、産業メンタルヘルス領域でいろいろ活躍の場をいただいた事がこの受賞に繋がったものと思います。幸いにも今も 10 年以上嘱託精神科産業医を続けさせて頂いている所も多数あり、まさにそれに関わりながら社会の変化を感じています。これからも、この受賞を励みに、産業メンタルヘルスに関わっていききたいと思います。

結びに、長きにわたりご指導いただき、支えていただき、お世話になりました多くの方々に心から御礼申し上げます。これからもご支援宜しくお願いいたします。

緑十字賞を受賞して



一般財団法人京都工場保健会

森口 次郎

この度、中央労働災害防止協会緑十字賞を受賞させていただきました。

私は大学卒業後、京都工場保健会に入職し、一貫して企業外の立場で産業保健活動を行い、特に中小企業の産業保健活動の向上に興味を持って取り組んで参りました。近年は、産業医や産業看護職をはじめとする多職種連携による小規模事業場へのサービス提供に取り組んでいます。また産業医グループの体制整備、資質向上などにも取り組み、おかげさまで常勤産業医は 13 名と私の就職時の倍以上に成長しました。企業外労働衛生機関の医師という業界の中でやや珍しい立場のおかげか、各種研究に参加させていただく機会にも恵まれてきました。研究を通じて広く産業保健に貢献する喜びを感じながらサービス向上のヒントを得て実践に反映させられることをとてもありがたく思っています。近畿地方会の先生方から「仕事を断るのが下手」とからかわれることもあり、自分でも外部の仕事をやり過ぎていてと感じているのですが、上記の研究活動のほかにもいくつか公的な役割を担当しています。なかでも京都府医師会理事（産業保健担当）は、事前に医師会長から聞いていた業務量よりはるかに負荷が高く「話と違う」と感じていますが（笑）、府下の産業保健に広く関わる大変やり甲斐ある仕事ですので、本学会で得た知見などを活かして今後も担当していきたいと考えています。

私は産業医大の卒業ですが、学内の卒後修練を受けることなく現在の職場に来ましたので、産業医としての基本形成には、近畿の先生方からのご指導が大きく影響しています。産業衛生学会近畿地方会、サンユ一会、関西産研、その他セミクロードの研究会などの研修やその後の懇親会で多くの助言を頂戴しました。この場をお借りして改めて御礼申し上げます。

今後も微力ながら産業保健の向上に役立てるよう努力を重ねてまいりたいと思いますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

会員の声



枚方市から産業看護の魅力を発信

関西医大・看護学部・看護学研究科

三木 明子

関西医科大学が90周年を迎えた今年、看護学部・看護学研究科博士前期課程・博士後期課程の3つ同時開設した新設大学の看護教員として勤務することになりました。「ここから看護学教育が変わる」として、ユニークなカリキュラムで学部と大学院教育をスタートさせたばかりです。100名の学部生は、全員が保健師国家試験受験資格を取得することができるため、1年生の5月下旬から枚方市に出向き、地域住民と積極的に関わる実習を行っています。本学は、地域に学ぶカリキュラムで「生活」に視点を置き、「人」をみる看護師・保健師を養成することを目指しています。産業看護の実習では、近隣の事業所にてお世話になります。

さて、2019年10月26日(土)・27日(日)、関西医

科大学にて日本産業看護学会第8回学術集会を開催いたします。「ダイバーシティの実現に向けた産業看護の力 すべての人の多様な働き方を支えるために」をテーマに、準備を進めているところです。特に、近畿地方会産業看護部会の皆様には多大なるご協力をいただき、大変心強く思っております。

学会1日目には、新たな試みとして「ナースング・サイエンス・カフェ」を企画しています。近畿地方の高校生・看護系大学生に向けて、現役の産業看護職が産業看護の魅力を伝えます。皆さんも高校生の頃、産業衛生に関わる仕事を想像しにくかったのではないのでしょうか。実際、高校生は病院で働く看護師はイメージできても、産業看護職のことは知りません。看護の道には、産業看護職の道があることを、早い段階で周知することで、産業看護の分野に優秀な人材を輩出できたらと考えております。

枚方市民となり、京阪電車の特急・準急・普通に迷わず乗れるようになり、5000系・8000系の違いが分かるようになりました。近畿地方会の皆様、これからどうかよろしくお願いします。



現在から未来へ

中央労働災害防止協会
近畿安全衛生サービスセンター

大柴 聡

産業衛生分野に勤務してから数十年が経過し、今は中災防衛生管理士(私は労働衛生コンサルタントの資格を取得後、現場教育を経て任命されました)として、事業場に出向いて安全衛生診断の実施、各種講演、教育・研修と忙しい毎日を過ごしています。

入社当時は、作業環境調査、特殊健康診断、分析等からのスタートでしたが、現在はそれらに加えて、安全衛生のマネジメントシステム、リスクアセスメント、中小規模事業場安全衛生サポート事業等を通じての事業場の安全衛生指導などを実施しています。

現場における労働衛生分野の変化のスピードは目覚ましく、特に化学物質管理、メンタルヘルス、過重労働、腰痛、熱中症、喫煙、ハラスメントに至るまで変化変化の連続です。最近感じていることは、労働災害は現場の作業場所で起こるということです。当たり前といえば当たり前ですが、現場の作業者がどれだけ知識・意識を持

ち、自主的な活動を行えるかは、時には事業場の運命を左右するかもしれない。今までは現場で災害が起こっても、数年して知れ渡ったニュースが1時間以内には全国に流れているということです。ますます安全衛生の重要性が強調される時代に入ったということです。

もう一つは、安全・健康に関する意識の世代差が大きくなっていること、事業場の中にベテランの安全衛生担当者が少なくなっていることです。安全衛生技術の伝承はまさに大きな問題です。労働安全衛生マネジメントシステムの導入を行い、事業場の中でPDCAサイクルを継続して回すことは、これらの問題の解決には必須といえるかもしれません。今までに品質MSのISO9001、環境MSのISO14001が事業場では取り入れられていますが、「ISO45001:2018労働安全衛生マネジメントシステム」が2018年3月に発行されました。働き方改革や健康経営などが重要視される今日では、製造業、建設業、運輸業等にとどまらず、サービス業等の第三次産業も含めた幅広い業種に取り入れられていくことが期待されます。第13次労働災害防止計画(2018年4月1日～2023年3月31日)でもこれらの事項を含め、8つの重点事項を掲げています。これらの施策を通じて、安全衛生レベルがスパイラルアップすることを願っています。



『食の瞑想』

伊藤忠商事（株）人事総務部 健康管理室

吉田 雅美

先日本社で昼食時に開催されるマインドフルネス ERG（瞑想会）に参加しました。

会の前半 30 分の食事には「ひとくち食べるごとに箸をおく」や、「音を立てない」といった“ルール”があります。箸で掴む（挟む）、口に運ぶ、置く、噛む、呑みこむといった一連の動作を、静かに繰り返します。日常とは異なる食事のリズムをそれぞれが刻む空間で、その瞬間瞬間に集中します。次第に、その「所作」を極めようとする不思議な一体感を感じるようになります。意図的な能動的な所作を終えるころ、いつもの倍の時間をかけて、いつもの半分の量でお腹が満たされていました。その後、おおよそ 30 分の瞑想に入ります。

「一つには功の多少を計り彼の来処を量る。」「二つに

は己が徳行の全欠を付って供に应ず。」「三つには心を防ぎ過を離るることは貪等を宗とす。」「四つには正に良薬を事とするは形枯（ぎょうこ）を療ぜんが為なり。」「五つには成道の為めの故に今此の食を受く。」他の生命に支えられ、犠牲の上に生かされ、感謝していただくこと、大切な生命をいただける自分であることを内省すること、貪り、欲、愚痴の三毒で身を滅ぼさないよう、作法を重んじ姿勢を形を正すこと、心と身の健康を保持し精進するがゆえにいただくこと、5つの心の眼で観て食するように、といった心構えが示されている、『食事五観之偈』は僧侶の食事（じきじ）作法の一つで、『食の処方箋』のような経文です。平成がちょうど始まったころ、少食健康療法を実践するため甲田医院に入院し、この経文を食前に唱えていた医学生だった自分が浮かんできました。食物に対する『愛と慈悲』、『平等の精神』、そして医師としての道標を示してくださった恩師の甲田光雄先生の姿が思い出され、目頭が熱くなりました。『食』とのマインドフルネスな対峙、恩師との再会を果たすことが叶ったひとときでした。



慣れ親しまれてきた「日通体操」と共に

日本通運（株）大阪航空支店・総務

永松恵美子

私は、貨物自動車による運送、海上運送、航空運送といった陸、海、空にわたり事業を展開している総合物流企業で産業保健に携わっています。

私たち物流業界では腰痛予防対策がとても重要であり、日々啓蒙活動や指導が行われています。その対策の一つに、従業員の健康保持、作業の安全、事務効率向上を目指して弊社独自に開発した以下四種類の体操があります。

第一・第二体操を昭和 29 年に導入して以降、昭和 53 年には第三体操、平成 9 年には第四体操を制定し、長く従業員に慣れ親しまれてきています。

1. 腰、脚の筋肉に柔軟性をつけ事故や怪我を防ぐことを目的とした「技能系社員用」体操（第一体操）
2. 血行を良くして凝りをとるストレッチ的なものが組み込まれた「事務系社員用」体操（第二体操）
3. 関節の伸展、腰の筋肉を強くする「腰痛、頸肩腕症候群予防用」体操（第三体操）
4. 車両を駐車中に運転席や車外で気楽に実施できる体操（第四体操）

体操は朝礼の前か業務に着手する前等、各職場の業務形態によって第一から第三体操を組み合わせる実施され、精神的・肉体的疲労回復にも繋がる内容になっています。

私の職場では、9時の始業開始チャイム後と15時に「日通体操の時間です、皆さん元気にやりましょう」というアナウンスが流れ、事務系、技能系従業員が一斉に体操を始めます。体操は正しい動作で行うことが重要であることから、入社時にはビデオ視聴や、社内指導員によるレクチャーを受けることになっています。人によってはデスクの上の書類を気にしながらやっている等、さまざまですが、皆さん健康に留意していることがわかります。

私が初めてこの日通体操に触れた時、ゆったりとした昭和の雰囲気を感じさせる音楽で、私が今まで経験したことがない動きもあり、今の時代にはそぐわないのではないかと思ったことがありました。

しかし、ラジオ体操が国民の健康啓発に 90 年の歴史を重ねているように、弊社独自の体操も 65 年の歴史があり、従業員の健康に貢献していることを改めて痛感しております。

昭和から平成へと受け継がれてきた日通体操が、新元号へと継承され、その歴史を積み重ねていくよう、私もこの体操と共に従業員の健康を支援していきたいと思っています。

議 事 録

平成 30 年度 第 3 回幹事会議事録

日 時：2018 年 11 月 10 日（土）12：00～13：00

場 所：和歌山県 JA ビル 2-A 会議室

出 席：森岡・中西・井上・圓藤（吟）・久保田・鈴木・
廣部・上原・圓藤（陽）・清原・佐藤・鮫島・豊川・堤・
濱田・藤岡・藤吉・丸山・村田・森口・岩根

欠 席：大脇・日高・伊藤・竹下（順不同・敬称略）

1. 第 58 回近畿産業衛生学会（和歌山）大会長ご挨拶

岩根能幹大会長からの主催にあたっての挨拶に引き続き、近畿産業衛生学会優秀演題および若手奨励賞の選考結果報告があった。優秀演題賞は森岡郁晴氏（和歌山産業保健総合支援センター）、若手奨励賞は岩倉浩司氏（滋賀医科大学社会医学講座）の二人に授与されることになった。

2. 2019 年度事業計画と予算案

森岡地方会長から 2019 年度の事業計画と予算について説明があった。

執行決算を基に協議した結果、赤字額削減のため来年度から近畿地方会総会と同日開催の特別講演・シンポジウムの産業医認定料を改定することとした。

3. 選挙管理委員会からの報告

佐藤選挙管理委員長から以下の報告があった。

1) 有権者数 1,113 名、111 名の新代議員が選出された。詳細は 1 月の地方会ニュース（本号）に報告する予定である。なお代議員選挙の投票率は 29.7% であった。

2) 理事候補者選挙について

近畿地方会に割り当てられた理事数は 5 名。

電子投票で、投票期間は 11 月 16 日開始、11 月 22 日終了。開票は 11 月 24 日に選挙管理委員立ち合いで行われる予定である。

4. 第 59 回近畿産業衛生学会（2019 年）の準備状況

森口次郎会長から開催日程は 2019 年 11 月 9 日（土）であること、会場は立命館大学朱雀キャンパスを予定していること、テーマは「産業保健スタッフのキャリアを考える（仮）」とし、基調講演に産業医科大学の森晃爾先生を予定していることなど、準備状況について報告があった。

5. 第 60 回近畿産業衛生学会（2020 年：大阪）の学会長について

2019 年 2 月開催予定の新旧合同幹事会で大会長を推薦することとした。

6. 第 67 回近畿地方会総会（2019 年 6 月 8 日）について

2019 年 6 月 8 日（土）に大阪市立大学医学部学舎 4 階大講義室で開催予定である。

7. その他

1) 地方会ニュース・ホームページ関係

藤岡広報担当幹事から、1 月 15 日発行の地方会ニュース 117 号には第 58 回近畿産業衛生学会の報告、役員選

挙の報告、近畿地方会会員で緑十字賞受賞者のコメントを掲載予定であること、ホームページの更新状況について当日配布資料に従って報告された。

2) 本部理事会報告

圓藤吟史理事から、本部理事会報告があった。

3) 日本産業衛生学会ダイバーシティ推進委員について

久保田理事からダイバーシティ推進委員に近畿地方会から 2 名推薦したと報告された。

次の新旧合同幹事会は、大阪市内で 2019 年 2 月に開催予定。

平成 30 年度 第二回代議員会

日時：2018 年 11 月 10 日（土）13：05～13：35

場所：和歌山県 JA ビル 和ホール AB

1. 開会

2. 地方会長挨拶

3. 議長選出

日野孝会員（日本予防医学協会）を選出

4. 代議員会成立の確認

6 月 1 日現在の代議員数 109 名のうち出席 25 名、委任状 51 名で、現在数の過半数出席により代議員会は成立（地方会会則第 13 条）を確認

5. 議事

(1) 第 58 回近畿産業衛生学会 大会長挨拶

(2) 同優秀演題賞 1 題・若手奨励賞 1 題 選考結果

(3) 第 59 回近畿産業衛生学会（2019 年）準備状況

(4) 第 60 回近畿産業衛生学会（2020 年）について

(5) 第 67 回近畿地方会総会（2019 年）について

(6) その他

1. 地方会役員選挙について

2. 地方会ニュースの発行状況と HP 更新状況

3. その他

6. 議長解任

7. 閉会

近畿地方会総会のお知らせ

2019 年度、第 67 回近畿地方会総会を下記日程・会場で開催予定です。

日程：2019 年 6 月 8 日（土）

会場：大阪市立大学医学部学舎 4 階 大講義室

詳細は近畿地方会ホームページ（<https://jsoh-kinki.jp/>）および 5 月発行の近畿地方会ニュース 118 号に掲載いたします。ご予約おきください。

産業看護部会からのお知らせ

新年あけましておめでとうございます。

昨年は産業看護部会活動にご支援、ご協力を賜り心よりお礼申し上げます。

2018年度最後の活動として、2月9日（土）に第2回定例研修会と産業看護部会本部 五十嵐部会長との懇談会を開催します。すでにご案内しておりますが、多数のご参加をお待ちしています。

今期は、研修会・産業看護職交流会の取り組みをはじめ「産業保健に関わる保健師・看護師の活動状況調査」を実施、ホームページを活用した情報発信等に取り組んで参りました。また、産業看護部会本部活動と連動した活動として研修会時に懇談会を開催するなど組織化の推進を図りました。

これまで産業保健看護専門家制度登録者試験が東京開催のみで行われていましたが、今年度は東京、大阪、九

州、東海の4会場で試験が実施されることになりました。試験日は1月27日（日）です。専門家制度委員の先生方と連携しながら準備を進めています。今後も産業看護部会本部等と連携を図り、地方会としての役割を発揮していきたいと思っております。

次年度はこれまで取り組んできた活動をより充実したものにと検討しております。一方、これまでの運営の在り方や活動内容の見直しを図ることも必要と感じております。私たちの活動をより皆様に理解していただくために、研修会開催時やホームページ等で紹介させていただきます。部会組織の活性化へつなげていくためには、一人でも多くの方に産業看護部会員になっていただき、一緒に活動ができることを願っております。

これからも、産業看護部会活動に積極的にご参加いただきますようお願いいたします。

技術部会からのお知らせ

平成30年度総会を平成30年11月10日（土）開催の第58回近畿産業衛生学会の第2会場（和ホールC）において、11:00～11:45に開催し、事業報告、会計報告、平成31年度総会および研修会について討議報告致しました。

その結果、平成31年度総会、幹事会および研修会が以下のように決まりました。

①平成31年度幹事会

日時：平成31年3月9日（土）12:00～12:50

場所：ホテル新大阪レストラン（大阪市東淀川区東中島1-20-33）

議題：平成30年度事業報告、会計報告、部会長の選出、平成31年度事業予定などの討議

幹事の皆様、メールにて出欠をお伺い致しますので、出席のほど宜しくお願い致します。

②平成31年度総会

日時：平成31年3月9日（土）13:00～13:15

場所：新大阪丸ビル別館（大阪市東淀川区東中島1-18-22）

議題：平成30年度事業報告、会計報告、平成31年度事業予定報告などについて

③平成31年度研修会

日時：平成31年3月9日（土）13:30～16:30

場所：新大阪丸ビル別館（大阪市東淀川区東中島1-18-22）

テーマ：「うつ病の予防と治療について」

(A) 「うつが消えていく食事療法」

座長：中央労働災害協会大阪労働衛生総合センター・竹内靖人室長補佐

演者：国立精神・神経医療研究センター・功刀浩部長

(B) 「マインドフルネスによるうつ病予防」

座長：関西福祉科学大学健康福祉学部健康科学科・長見まき子教授

演者：長岡ヘルスケアセンター・若井貴史 臨床心理士

今回の研修会は心理技術研究会との共催です。

定員：90名（先着順で受付、定員になり次第受付終了）
近畿地方会ホームページ「産業衛生技術部会からのお知らせ」欄の受講申し込みフォーム（<http://jsoh-kinki.jp/kinki-003/>）にて受け付けます。

参加費：無料、資料代：500円（当日集金）

なお、本研修会は日本医師会認定産業医生涯研修（実地1.5単位・専門1.5単位）の申請を予定しています。皆様、奮ってご参加のほど、宜しくお願い致します。

近畿地方会技術部会長 圓藤 陽子

産業医部会からのお知らせ

第 23 回近畿産業医部会研修会を終えて

パナソニック株式会社 AIS 社西門真健康管理室

森山 和郎

去る 9 月 29 日に大阪市立大学医学部学舎にて「2020 年にむけて、がんばれ日本の職場のたばこ対策」をテーマとした研修会を実施いたしました。国際オリンピック委員会は 1988 年から選手村や競技場を禁煙とする「たばこのない五輪」を推進しています。2020 年の東京オリンピック・パラリンピック開催が近づく今が日本のたばこ対策推進の絶好の機会ということもあり今回の研修会を企画させて頂きました。

基調講演は「東京オリパラにむけて！職場のたばこ対策に展望」というテーマで、地域医療振興協会ヘルスプロモーション研究センターの中村正和先生にお願いいたしました。中村先生からは、日本のたばこ対策は世界のたばこ対策先進国に比べまだまだ不十分であること、改正健康増進法について、初めて罰則が盛り込まれたこと、職場は原則屋内禁煙、加熱式たばこの禁煙場所での使用を規制するなどの評価できる点と課題についてお話いただきました。また健診の場での短時間の禁煙介入の効果、禁煙の遠隔診療、新型たばこの知識、禁煙推進の取り組みのインパクトを参加者数と成功率の 2 軸で考えることなど職場のたばこ対策推進に役立つ多くの内容をお話いただきました。

基調講演に続いて「がんばれ日本の職場のたばこ対策」をテーマに東レ株式会社滋賀事業所健康管理センターの中西一郎先生を座長に、3 人のシンポジストによるシンポジウムを行いました。新日鐵住金株式会社製鋼所の今野由将先生は産業医の立場から、安全衛生の年間活動計画の達成目標に受動喫煙ゼロを落とし込みワーキンググループを発足させ計画的に屋内禁煙化を達成した事例を紹介いただきました。パナソニック健康保険組合の和久純也氏は事業場担当者の立場から、事業所数 181 の大企業グループで事業場・労働組合・健康保険組合が三位一体で 2020 年の屋内禁煙化方針を決定し推進しているプロセスを発表いただきました。栗田工業株式会社の鈴木美恵子氏は産業看護職の立場から、長年の禁煙支援と喫煙行動に関する研究の報告と更なるたばこ対策へ

の決意について発表いただきました。今後の職場の喫煙対策を進める上で、有用な知識とシンポジストの方々に負けずに頑張っていこうという気持ちを掻き立てられる大変有意義なシンポジウムとなりました。

最後になりましたが、本研修会の講師・シンポジストの先生方、関係者各位、また台風 24 号が迫る悪天候の中出席頂いた皆さまには紙面をお借りしてお礼を申し上げます。

会員の異動（敬称略）

〈新入会員〉

飯田 善啓	全国健康保険協会 奈良支部
石松 丈詩	全国健康保険協会 奈良支部
今井 秀子	パナソニック健康保険組合
打上 実季	パナソニック健康保険組合
大窪 康修	おおくぼ歯科医院
小野 一行	医療法人栄知会 小野歯科医院
加藤 暁	全国健康保険協会 奈良支部
魏 民	大阪市立大学大学院医学研究科
菊岡 佳奈映	(株) モリタ製作所
岸本 高明	武田薬品健康保険組合
金城 志織	(株) ドクタートラスト
黒田 亜希子	積水化学工業 (株)
小坂 千夏	大阪警察本部
小寺 徹	医療法人徳洲会 宇治徳洲会病院
笹部 努	ささべ歯科医院
関山 敦生	大阪大学大学院薬学研究科
孫 弘樹	医療法人青洲会診療所 (歯科)
鷹野 枝里	たかの歯科クリニック
内藤 敬祐	ウシオ電機 (株)
永松 正代	医療法人福命会 くずは画像診断クリニック
西田 真也	西田歯科医院
浜口 真実	東和薬品 (株)
藤川 昌典	医療法人 光愛会 光愛病院
藤下 登紀子	大阪府警察本部
本田 優子	大阪労災病院
松田 雅子	京都産業保健総合支援センター
森田 久樹	造幣局診療所
吉岡 俊昭	一般財団法人住友病院
鰐淵 英機	大阪市立大学大学院医学研究科

編集後記

会員の皆様、新年あけましておめでとうございます。今年は平成最後の年となりました。今年の「漢字」が「災」であったように、平成の 30 年は二つの大震災をはじめとする地震、台風、豪雨など多くの自然災害に見舞われたことが印象に残っています。今年 5 月からはいよいよ新しい元号が始まります。新しい年がより災害の少ない平穏な年になる

ことを願ってやみません。

(藤岡 滋典)

編集委員 (50 音順)

圓藤 陽子 清原 達也
鈴木 純子 (担当理事)
藤岡 滋典 (代表幹事)
藤吉奈央子 村田 理絵 (代表幹事)